

くしまっご 紹介

第31回串間市青少年の声を聞く会

■市内の各小学校から19名が思いを述べました。
今回は各小学校の6年生の発表を要約してご紹介します。

柔道を通して考えること

秋山小 山内大輔くん
僕は柔道をしています。大人になつたら大好きな柔道を世界中に広げて、たくさんの人に素晴らしさを伝えられたらいいなと思います。そのために柔道も勉強も投げ出さずに、「一本！」を取り続けたらいいと思います。

串間のために

ほくにできること

大東小 野辺郁哉くん
僕はエイサーをやっています。イベントでエイサーを踊ったのですが、その後にくさんのメッセージが届きました。エイサーで触れ合った人たちに串間に興味を持ってもらうことができました。串間のために努力を続ける大人になりたいです。

自分の中での成長

都井小 時任舞奈さん
自転車大会に出場しまし

た。この経験で自分の中で成長したことがあります。仲間との絆といういろいろなことに挑戦し努力するという事です。この気持ちを忘れずに仲間とともに色んな事に挑戦していきたいと思っています。

ロードキルを防ごう

本城小 山口菜摘さん

道路上で発生する野生動物の死亡事故を「ロードキル」といいます。わたしは車を運転する人に声をかけようと思いました。尊い命がなくなるという点では殺人もロードキルも同じです。これからも命あるすべてのものを大切にしていきたいでしょう。

正しい言葉

言葉にできる勇気

市木小 大山瑛美さん

全校学級活動で友だちに注意するとき、どんな言い方で話せばよいかを話し合いました。先生の模範演技を見て、

ハキハキと自分の考えをだれにでも言えるようになりたい

と思います。みんなが相手の気持ちを考えながら話をする事ができれば、もっと仲良く分かりあえると思います。

父と一緒に串間を元気に

福島小 喜多竜作くん

串間市の人口が減っていて、まちに元気がないなと思っています。僕の父は米屋をしています。店を続けていくことが串間の町を盛り上げることにつながっていると思います。僕も父の後を継いで、父と一緒に「宮崎県といえば串間市！」と言われるくらい元気な串間市にしてみせます。

わたしの大好きな笠祇

笠祇小 野邊美玖さん

わたしは笠祇の素晴らしさを多くの人に知ってもらいたいと思っています。美しい山

並みや星空など、言い表せないほどきれいです。また、笠祇の人たちは笠祇に住んでいる人のことを家族のように思っています。これからたくさんの人たちに笠祇の素晴らしさを伝えていきたいです。

ぼくの夢

北方小 相澤龍斗くん

僕の夢は酪農家になることです。父や母を見ていて、酪農家には優しさや強さ、力、がまんが必要だと思います。できるだけ手伝いをし、父や母に負けないような酪農家になりたいです。

母から学んだこと

大平小 黒原梨沙さん

わたしは母のことが大好きで母のようになりたいです。相手に優しく接することで優しさが返ってくる。母が言葉ではなく態度で示してくれた大切な教えます。母から生まれてきたことがとてもうれし

いです。尊敬するお母さん、いつもありがとう。

平凡な日を幸せに感じよう

金谷小 隈本光里さん

お休みの日に友だちと一緒に遊びました。本を読んだり宿題をしたりゲームをしたり。この平凡な日常生活をしていて「平和っていいなあ」と思いました。戦争や病気、いじめなどで命を落とす人たちがたくさんいます。世界に必要なのは「相手の気持ちを考えること」だと思います。

地域や社会に役立つ美容師

有明小 牧野海吹さん

わたしはすべてのお客様を笑顔にできる美容師になりたいと思います。美容師の親戚の姿を見てあこがれました。美容師になる夢の達成と地域や社会に役立つ立派な大人になれるよう努力を続けたいと思います。

肺炎球菌ワクチンについて

肺炎球菌による肺炎

串間市の65歳以上の割合は35%を超えています。80歳以上の高齢者が肺炎にかかる割合が奪われてしまつていくことが多いと言われています。串間市民病院の患者さんの平均年齢も非常に高くなつていまして、高齢にもかかわらず元気に農作業をしていた人が、ある日突然肺炎にかかって亡くなつてしまつてもよく聞きます。

肺炎球菌は、肺炎を起こす原因菌の中で約4割を占めている病原性が高い細菌です。特に65歳以上では肺炎の原因菌の第一位です。抗生物質の発達などにより減少しつつあつた肺炎の死亡率は、最近また上昇しています。近年、1歳をピークとする乳幼児での発症例とは別に、70歳以上の高齢者において再び増加傾向にあることが大きな問題となつていまして、肺炎球菌は免疫のはたらきが十分でない、乳幼児や高齢者にさまざまな病気を引き起こします。肺炎球菌によつて起こる主な病気には、肺炎、気管支炎などの呼吸器感染症や副鼻腔炎、中耳炎、髄膜炎、菌血症などがあります。本来であれば菌が検出されない場所（血液や脳脊髄液など）から菌が検出される病態（髄膜炎、菌血症など）を特に「侵襲性肺炎球菌感染症（IPD）」と呼びます。侵襲性肺炎球

菌感染症は5歳以下の乳幼児と65歳以上の高齢者に多く発症することが知られています。また、細菌による感染症はペニシリンなどの抗生物質により治療しますが、近年は抗生物質が効かない薬剤耐性菌が増えているため、治療が困難になっているという問題があります。また高齢者の感染では抗生物質の治療が間に合わないことが少なくありません。事前に予防することの重要性が見直されています。

肺炎球菌ワクチン投与の必要性

インフルエンザと同じように肺炎球菌のワクチンが開発され、接種ができるようになっていまして（専用のワクチンであり、肺炎球菌の感染以外には効果がありません）。肺炎球菌によつて起きる感染症を予防するための有効なワクチンです。肺炎球菌には80種類以上の型があります。ワクチン接種によつて、そのうちで感染する機会の多い23種類に対して免疫をつけることができ、すべての肺炎球菌肺炎の8割位に有効と云われています。

2002年以降、わが国においても、肺炎球菌ワクチン接種が急増してきています。1回の接種で5年以上持続し、再接種した部位の強い副反応が増加するため、今までは肺炎球菌ワクチンの接種は1回のみで再接種は認められていませんでした。しかしながら、2009年より日本感染症学会によりガイドラインが

定められ、医師の判断が必要であれば再度接種することが可能となっております。

毎年インフルエンザワクチンを受けている方は、多数いらっしゃると思います。一方、肺炎球菌ワクチンは米国では高齢者の60〜70%が接種していますが、これまで日本では高齢者の4〜5%程度しか接種をされていません。インフルエンザから肺炎になる患者さんは、青少年や成人ではほとんどいませんが、80歳以上になると約13%になっています。インフルエンザにかかる数は小児のほつが多いのですが、死亡者数は高齢者が多くなつていまして、インフルエンザワクチンと肺炎球菌ワクチンの両方を接種することによつて、万が一インフルエンザにかつても重症肺炎を併発せずにすむといわれています。今後は、行政がインフルエンザワクチンと同様、肺炎球菌ワクチンにも助成をすべきだと思ひます。肺炎球菌ワクチン接種は、次のような方に特に勧められます。①65歳以上②心臓や呼吸器に慢性疾患③腎不全や肝機能障害④糖尿病⑤脾臓の摘出手術などで脾機能不全のある方（脾臓の摘出手術を受けた方だけ保険が認められています。そのほかは自費になります）ぜひかかりつけの先生にご相談ください。



著：串間市民病院 院長
黒木 和男

Kazuo Kuroki

Health Knowledge 健康マメちしき